

令和7年度 一般財団法人 救急振興財団 調査研究事業助成  
救急隊員を対象とした暴力に至るリスクの高い不穏状態にある傷病者への対応に関する  
シミュレーション教育の開発

報告書

【研究代表者】

本武敏弘

福岡女学院看護大学 看護学部看護学科 精神看護学分野 講師  
精神看護専門看護師

【共同研究者】

佐々木夏恵 呉市消防局  
八尋わか奈 杵藤地区広域市町村圏組合消防本部(救急救命士)  
濱田拓也 有明広域行政事務組合消防本部(救急救命士)  
西 将希 帝京大学 医療技術学部 看護学科(助教 看護師)  
神澤尚利 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科看護科学域(准教授 看護師)  
吉川由香里 福岡女学院看護大学 看護学部 看護学科(准教授 看護師)  
日野耕介 沼津中央病院 精神科(医師)  
橋本 聡 国立病院機構熊本医療センター 精神科(精神科部長 医師)  
藤野ユリ子 福岡女学院看護大学 看護学部 看護学科(教授・学部長 看護師)

令和8年3月1日

## アブストラクト

本研究は、精神疾患や酩酊等により不穏状態にある傷病者からの暴力や対応困難な傷病者への対処能力向上を目的として、病院前救護に従事する救急隊員を対象としたシミュレーション演習および教材の開発と効果検証を行ったものである。近年、救急現場では精神症状を呈する傷病者への対応機会が増加している一方、体系的な教育機会は十分とはいえ、現場の経験則に依存した対応が行われている実態が指摘されている。事前アンケートにおいても、参加者全員が精神症状を訴える傷病者への対応に困難感を抱いた経験があると回答しており、専門的教育への高いニーズが確認された。

本演習では、実際の現場を想定したシチュエーション・ベースド・トレーニングを中核に据え、事前学習、グループディスカッション、シミュレーション、ディブリーフィングを組み合わせた教育プログラムを実施した。学習者は事前に精神症状を有する傷病者への対応およびシミュレーション演習の概要に関する動画教材を視聴し、基礎知識を整理した上で演習に参加した。演習当日は、プレブリーフィングで学習目標と進行方法を共有し、提示された模擬傷病者情報をもとにグループで状況評価および対応方針を検討した。その後、現場環境を再現した状況で模擬傷病者への対応過程を体験的に学習した。シミュレーション後のディブリーフィングでは、言語的・非言語的コミュニケーションや安全確保の視点から対応を振り返り、改善点を共有した。さらに、反復シミュレーションにより理解の深化と実践力の向上を図った。

事後アンケートの結果、演習内容は参加者の期待に十分応えるものであり、精神症状を訴える傷病者および現場環境の状況評価、言語的・非言語的コミュニケーションの理解といった学習目標は概ね達成されたと評価された。また、シミュレーション演習前後で対応への自信は有意に向上しており、実践への活用可能性についても全参加者が肯定的に回答した。シミュレーション演習は臨場感があり主体的に考える機会となる点が高く評価され、事前学習資料やディスカッション、講師からの助言も理解促進に有効であったとの意見が多く得られた。満足度および他者への推奨意向も高く、本プログラムは現場ニーズに基づく実践的教育として有用であることが示唆された。

なお、本研究課題採択時は表題の通りシミュレーション教育と表記していたが、便宜上シミュレーション演習に統一する。

## I. 背景と目的

### 1. 本研究の着想に至った背景

筆者らは 2019 年に一般財団法人救急振興財団の助成を受け、救急隊員が受けている暴力と精神状態の関連について調査を行い、①約 6 割の救急隊員は精神疾患あるいは酩酊によって不穏状態にある傷病者より暴力を受け、不眠や不安などの精神状態を呈しており、②所属組織への不信感が高まっていることを明らかにすると同時に、③救急隊員の約 4 割が暴力に関する専門教育の受講を希望していることも明らかにした（令和元年度 救急に関する調査研究事業報告書、本武 2019）。2024 年 10 月 16 日には東京消防庁から救急隊員に対する暴力などの妨害行為について X を通じて発信する事態となっており（東京消防庁公式 X より）、状況は改善されていない。そうした状況を改善するために筆者らは暴力に対応するためのシミュレーション演習に着目した。

シミュレーション演習はアクティブラーニングの一つであり、実際の場면을再現し、実践と省察を繰り返し、実践力の向上を図ることを目的としており、再現された緊急性の高い場面の中で繰り返し、かつ安全に学習できるメリットがある。このシミュレーション演習を行うことにより、不穏症例に対して安全にかつ質の高い救護が実践でき、暴力行為による精神状態の不安定さおよび仕事へのモチベーションの低下を予防することに着想した。

本研究で実施するシミュレーション演習はシチュエーションベースドトレーニング\*1として①不穏状態にある傷病者の精神状態のアセスメント、②具体的な対応に関するグループディスカッション、③現場を再現してシミュレーション演習を行い、④シミュレーション後のディブリーフィング\*2を通して、より効果的な対応方法を検討する内容とした。またシミュレーション演習での学習効果を高めるため、症例に関する情報提供目的で動画教材の作成も行う。このシミュレーション演習は JSEM が運営している Pre hospital PEEC Skills Training(以後 PPST)のアドバンストコースとして実装を目指す。

#### \*1 シチュエーションベースドトレーニング

患者の状況や状態を模擬的に再現して、看護に必要な情報収集とアセスメントし、一部技術の提供ができることを目指す

#### \*2 ディブリーフィング

シミュレーション体験後に、学習者が自らの行動・思考・感情を振り返り、臨床判断や行動の意味を整理し、今後の実践に結びつけるために行う構造化された振り返りのプロセス

### 2. 研究目的

病院前救護に従事する救急隊員を対象とした暴力に至るリスクの高い不穏状態にある傷病者に対する対応に関するシミュレーション演習および教材を開発し、その効果測定を行う。

## II. シミュレーション演習当日までの作業過程

### 1. 実際の作業スケジュール

- 4月 打ち合わせ①
- 5月 打ち合わせ②(シナリオデザインシート\*3作成)
- 7月 打ち合わせ③(シナリオデザインシート作成)
- 8月 打ち合わせ④(シナリオデザインシート作成)
- 9月 シミュレーション教育指導者養成研修@福岡女学院看護大学  
参加：濱田、八尋、佐々木
- 11月 打ち合わせ⑤(シナリオデザインシート作成)
- 12月 動画教材(シミュレーション演習で現場の再現性を高めるための動画)作成  
@有明広域事務組合消防本部、玉名市民会館会議室  
参加：濱田、佐々木、八尋、本武、他(模擬患者・看護師役演者)
- 1月 参加者募集開始
- 2月 シミュレーション演習「精神症状を訴える傷病者への対応について考える」  
@福岡女学院看護大学  
参加：佐々木、八尋、神澤、吉川、藤野、本武、他(模擬傷病者演者)

\*3 シナリオデザインシート

学習目標、事前・演習当日準備、演習の進行(ディスカッション、シミュレーション)などの詳細を記載した教育計画案

### 2. 作業の概要

4月の打ち合わせで主な作業について、研究協力者で右記の通り分担した。

シナリオデザインシートチームでシナリオデザインシートの原案を作成し、原案をもとに演習での模擬傷病者の再現性を高めるための動画教材の検討を行い、作業を行うこととした。シナリオデザインシートは12月上旬におおよそ完成し、同月下旬に動画を撮影した。

シナリオデザインシートチーム	動画作成チーム
本武敏弘	
神澤尚利	八尋わか奈
西将希	佐々木夏恵
濱田拓也	日野耕介
橋本聡	(濱田拓也)
吉川由香里(オブザーバー)	
藤野ユリ子(オブザーバー)	

シナリオデザインシートの作成の過程で、不穏状態が顕著な模擬傷病者である場合は、警察対応となるケースがあるとの議論を受け、今回は模擬傷病者の不穏の程度をやや軽度として希死念慮と自傷行為に伴う外傷があり、搬送の必要性がある傷病者として設定し、精神症状を訴える傷病者への対応にフォーカスを当てることとした。それに伴い、シミュレーション演習の表題を「精神症状を訴える傷病者への対応を考える」とした。

撮影した動画は、シミュレーション演習当日に学習者へ視聴してもらい、模擬傷病者の状況を視覚的にイメージできるよう配慮した。また事前課題として西氏が統合失調症の患者への対応に関する事前課題動画を作成した。**なお、シナリオデザインシートの内容については今後のシミュレーション演習開催への影響を考慮し、公表しない(救急進行財団には成果物として提出する)。**

演習前日(2月20日)に八尋、神澤、吉川、藤野、本武の5名で、シナリオデザインシートおよび演習前後アンケート項目の内容などについて検討し、スタッフ間でのリハーサルを行った。

### III. シミュレーション演習開催報告

#### 1. 開催概要

- 開催日 : 2026年2月21日 10:30~12:30
- 参加者数 : 10名(3-3-4の3グループ編成)
- 参加者性別 : 男性9名、女性1名
- 参加者平均年齢 : 38.9歳(26~57歳)
- 救急隊員としての平均経験年数 : 12年(1~33年)
- 参加者所属組織の所在県 : 福岡県8名、千葉県1名、長崎県1名

#### 2. シミュレーション演習の流れ



注) シミュレーションのみ別の演習の写真を使用しています

学習者はシミュレーション当日までに事前課題として「統合失調症を有する傷病者への対応」「シミュレーション演習とは」に関する動画を視聴する。

<演習当日>

演習当日は以下の流れで演習を実施した。

##### 1.プレブリーフィング\*4(導入)

学習目標の提示、スケジュール確認、進行について、アイスブレイク、傷病者情報提供

##### 2.グループワーク

傷病者対応について

##### 3.1回目シミュレーション実施グループ選出

##### 4.代表グループによるシミュレーション実施①

約10分間のシミュレーション、他グループは別室で状況をモニタリング

##### 5.デブリーフィング(振り返り)①

情報整理、傷病者理解・対応について

##### 6.シミュレーション実施グループ選出

##### 7.代表グループによるシミュレーション実施②

約10分間のシミュレーション、他グループは別室で状況をモニタリング

##### 8.デブリーフィング(振り返り)②

傷病者対応について

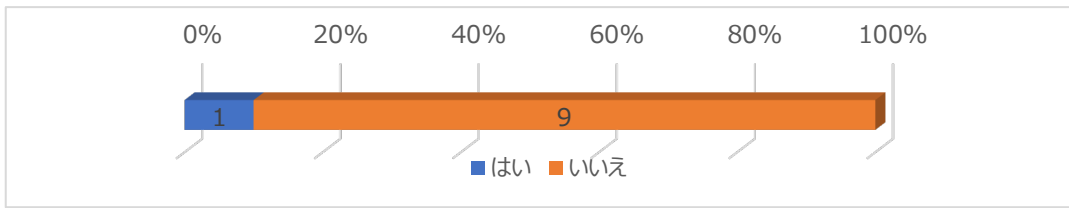
##### 9.疾患に関する知識および対応技術に関する補填

##### \*4 プレブリーフィング

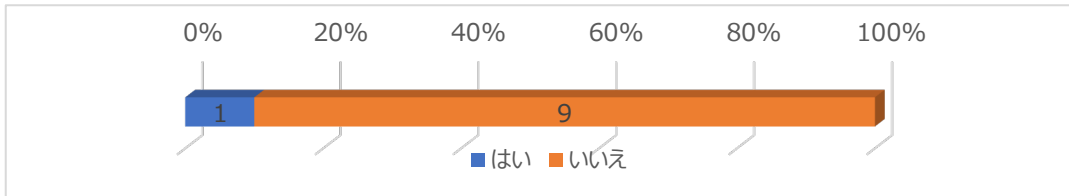
シミュレーション実施前に、学習目標・役割・環境設定を共有し、学習者が安心して参加できる学習環境を整えるために行われる構造化された事前オリエンテーション

### 3. 事前アンケート結果(n=10)

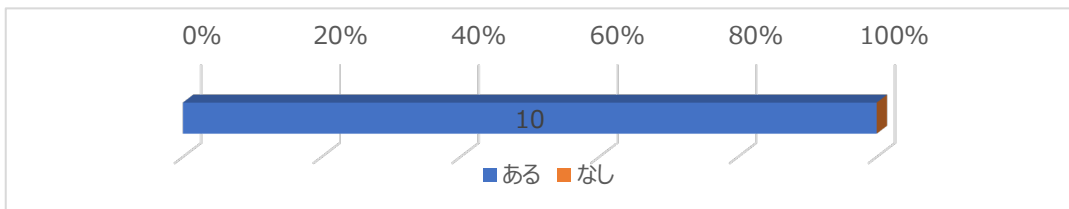
1) 日本臨床救急医学会 PEEC(Psychiatric Evaluation in Emergency Care)コースを受講したことはありますか？



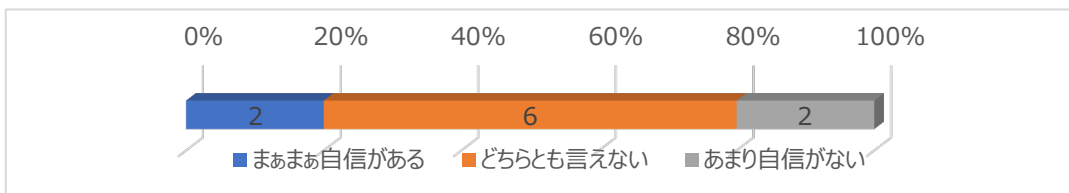
2) 日本臨床救急医学会 PPST(Prehospital PEEC Skill Training)コースを受講したことはありますか？



3) 精神症状を訴える傷病者の対応で困難感を抱いたことがありますか？



4) 現在の精神症状を訴える傷病者への対応に関する自信の程度を教えてください。



5) 今回演習に参加しようと思った動機を教えてください。

- 業務上必要であり、実践や質向上に役立つと思った
- 専門性を向上させたい
- 上司・組織からの勧め
- 業務上必要であり、実践や質向上に役立つと思った;内容への興味や、日程・方法など参加しやすい条件が整っていた
- 内容への興味や、日程・方法など参加しやすい条件が整っていた
- 業務上必要であり、実践や質向上に役立つと思った;専門性を向上させたい;内容への興味や、日程・方法など参加しやすい条件が整っていた

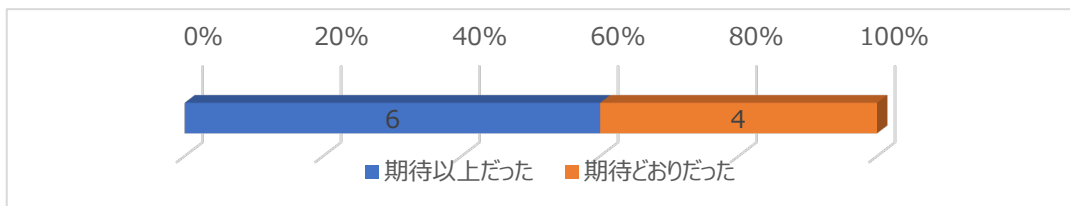
#### <事前アンケート要約>

演習前アンケートの結果、精神救急に関する専門研修の受講経験者は少なく、多くの参加者が体系的な教育機会を十分に得ていない状況であった。また、参加者全員が精神症状を訴える傷病者への対応に困難感を抱いており、**現場において対応の難しさを日常的に感じている**実態が明らかとなった。**現在の対応に関する自信についても、十分に自信を持てているとは言い難く、判断に迷いながら対応している様子**がうかがえた。さらに、演習参加の動機は、業務上の必要性や実践の質向上、専門性の向上への期待が多く、本演習が現場のニーズに基づく実践的

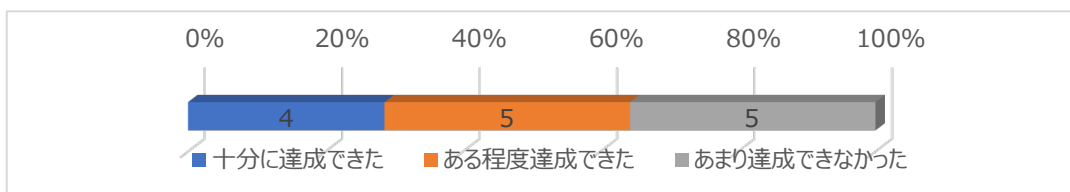
な学習機会として求められていることが示された。以上より、本演習は参加者の課題意識と学習ニーズに合致した教育機会であったと考えられる。

#### 4. 事後アンケート① 結果 (n=10) \* 質問文中の研修は演習と同義

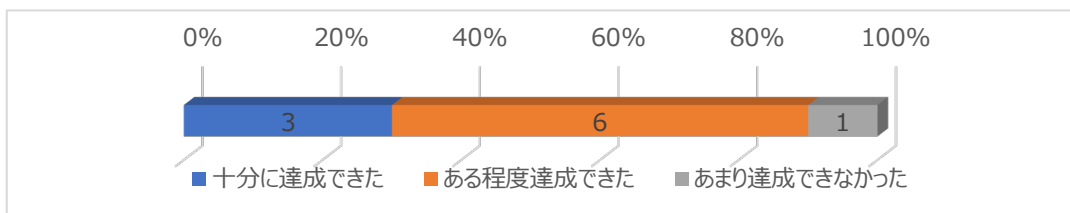
1) 研修は期待した内容でしたか？



2) 学習目標 1「精神症状を訴える傷病者および環境から状況評価ができる」を達成できたと感じますか？



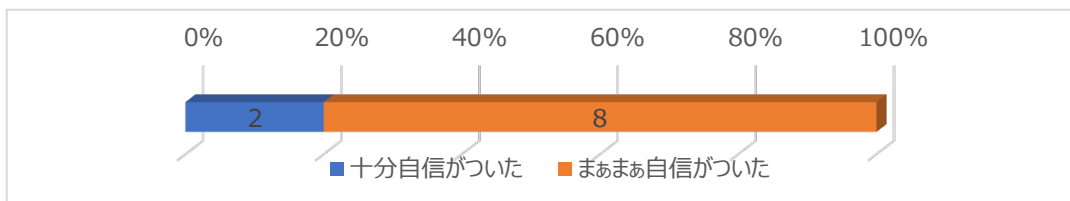
3) 学習目標 2「精神症状を訴える傷病者への言語的・非言語的コミュニケーションを理解できる」を達成できたと感じますか？



4) 学習目標を達成することを助けた内容や教材があればご記入ください。

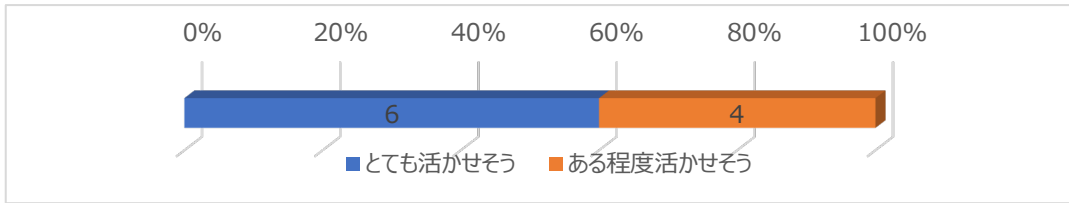
- 事前学習資料
- 事前課題や今回の研修で学ぶことができたため。
- 事前学習のお陰で講習中にすんなり頭に入ってきた。
- シミュレーション演習
- ディスカッションの補足説明
- 講師のアドバイスが全て勉強になった。
- 外観や行動に様々なヒントがあることを学び、見方が変わった。
- シミュレーションを第三者目線で見ることができ、理解が深まりました。

5) 研修前と比べて、精神症状を訴える傷病者への対応に関する自信の程度を教えてください。

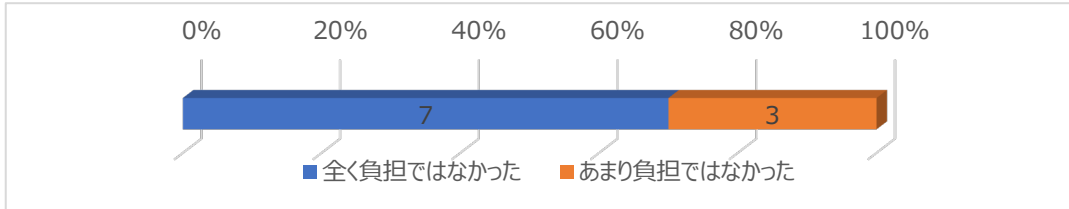


\* 自信の前後比較を実施したところ Wilcoxon 符号付順位検定の結果： $p = 0.010$  であり、**多くの参加者で自信の向上が認められ、研修効果が示唆された。**

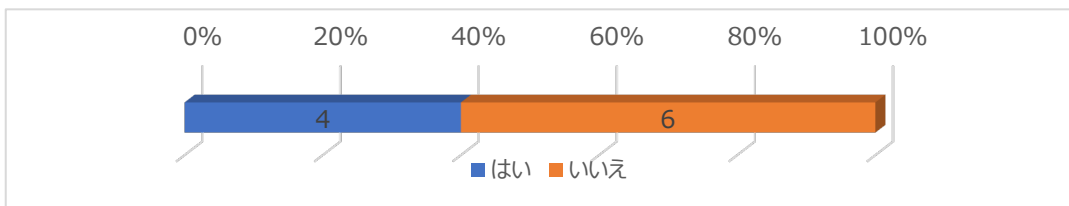
6) 今回の研修内容を、実際に精神症状を訴える傷病者への対応に活かさせそうですか？



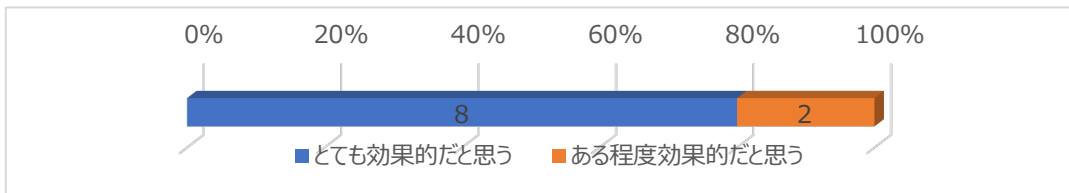
7) 事前課題は負担になりましたか？



8) シミュレーション演習を体験することは初めてでしたか？



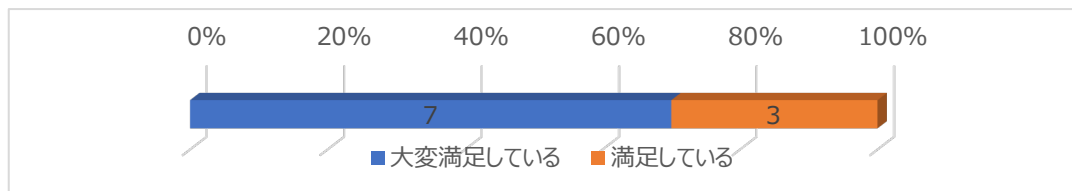
9) シミュレーション演習は、専門職としてスキルアップの方法として効果的だと思いますか？



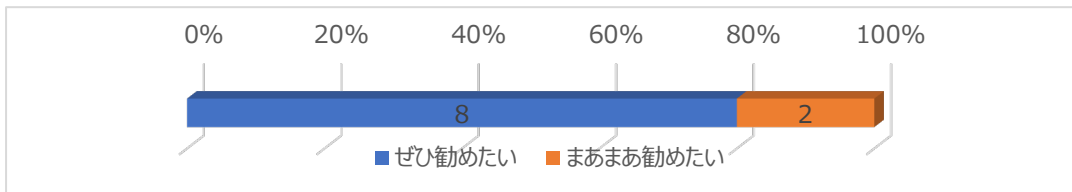
10) 質問7で回答された理由を自由にご記入ください。(原文のまま)

- 専門的に傷病者の気持ちや思考が反映されたシミュレーションは、とても実践向けと感じました。
- 距離感、相手の気持ちに寄り添うことを学ぶことができた。
- また傷病者側の気持ちも聞けたので、今後に活かしたいと思う。
- 実際に実演する事でより頭や体を使うため、身につきやすいつと感じた。
- 言語的、非言語的コミュニケーションの要領や言葉の選択などが理解、整理できた。
- 知識を体現するため
- 距離感、いつもの状況等、安全の確保等
- 実践的なシミュレーションだったので臨場感があり、良かったです。
- シミュレーション実施隊のやったことの共有がほかのグループにあまりなかったの
- どんなことを患者や訪問看護から聞いたのか
- わからなかった
- やったグループからの聴取したことや所見の共有時間があるといいと感じた
- 反復訓練をして、理解を深めることで、現場に必ずや活かせる、と感じました
- 考えることを強制させるのに大変効果的だと思います。教えてもらうだけでなく、自ら考えて正解を導く事が成長するために必要だと思います。

11) 今回の研修の満足度を教えてください。



12) 今回の研修を他の方にも勧めたいと思いますか？



### 事後アンケート② 演習に関するアンケート (n=10)

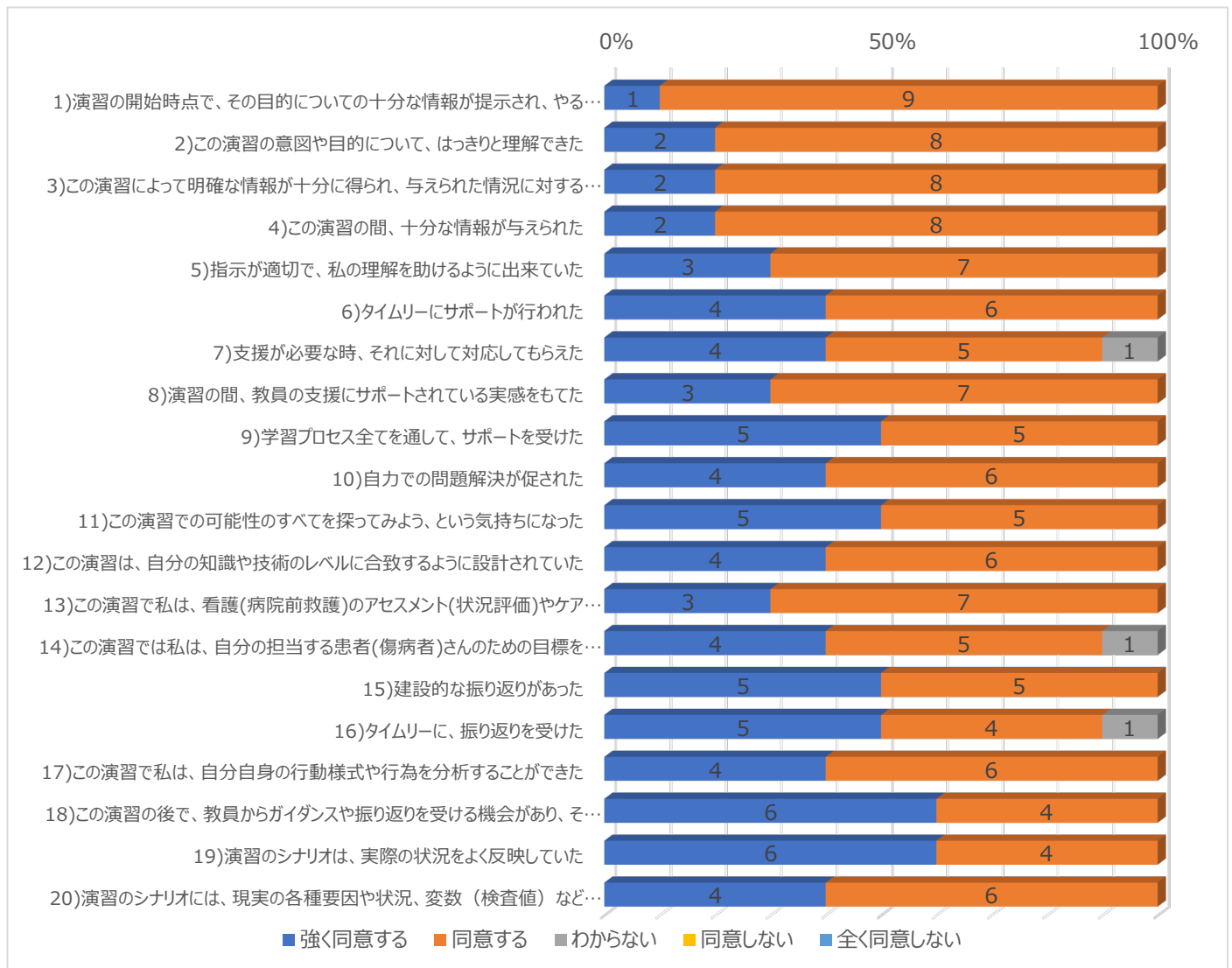
演習のデザインに関する評価について皆さんが行っている演習において、演習を設計する構成要素としてベストの要素が組み込まれているかを測定するため、あなたの認識に従って、下記のアンケートに回答してください。

\*強く同意する～全く同意しない(5段階リッカート)と「わからない」の6選択

〈質問項目〉

- 1)演習の開始時点で、その目的についての十分な情報が提示され、やる気を起こしてくれた
- 2)この演習の意図や目的について、はっきりと理解できた
- 3)この演習によって明確な情報が十分に得られ、与えられた状況に対する問題解決ができた
- 4)この演習の間、十分な情報が与えられた
- 5)指示が適切で、私の理解を助けるようになっていた
- 6)タイムリーに、サポートが行われた
- 7)支援が必要な時、それに対して対応してもらえた
- 8)演習の間、教員の支援にサポートされているという実感をもてた
- 9)学習プロセス全てを通して、サポートを受けた
- 10)自力での問題解決が促された
- 11)この演習での可能性のすべてを探ってみよう、という気持ちになった
- 12)この演習は、自分の知識や技術のレベルに合致するように設計されていた
- 13)この演習で私は、看護(病院前救護)のアセスメント(状況評価)やケアに優先順位をつける機会が与えられた
- 14)この演習では私は、自分の担当する患者(傷病者)さんのための目標を設定する機会を与えられた
- 15)建設的な振り返りがあった
- 16)タイムリーに、振り返りを受けた
- 17)この演習で私は、自分自身の行動様式や行為を分析することができた
- 18)この演習の後で、教員からガイダンスや振り返りを受ける機会があり、それにより知識のレベルをさらに高めることができた
- 19)演習のシナリオは、実際の状況をよく反映していた
- 20)演習のシナリオには、現実の各種要因や状況、変数(検査値)などが取り入れられていた

## 結果



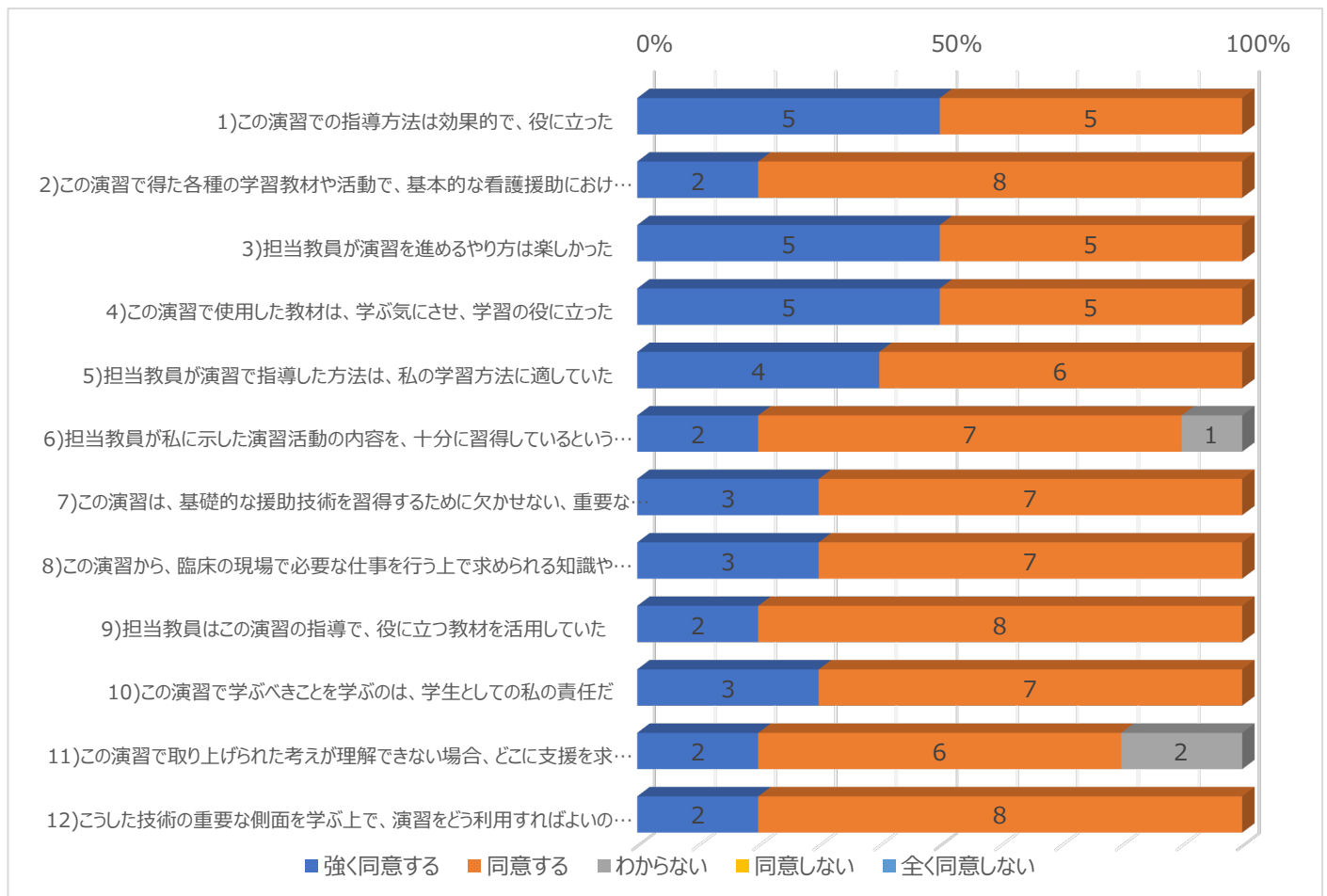
### 事後アンケート③ 学習における満足度と自信(n=10)

各項目は、あなたが必要な教育を受ける際に、学習における満足度や自信について、あなた自身がどう思っているかを表したものです。各項目について、あなた自身がどう思うか、自分の考え方や意見にもっとも近いものに「○」をつけてください。\*強く同意する～全く同意しない(5段階リッカート)と「わからない」の6選択

#### 〈質問項目〉

- 1)この演習での指導方法は効果的で、役に立った
- 2)この演習で得た各種の学習教材や活動で、基本的な看護援助における学習がしやすくなった
- 3)担当教員が演習を進めるやり方は楽しかった
- 4)この演習で使用した教材は、学ぶ気にさせ、学習の役に立った
- 5)担当教員が演習で指導した方法は、私の学習方法に適していた
- 6)担当教員が私に示した演習活動の内容を、十分に習得しているという自信がある
- 7)この演習は、基礎的な援助技術を習得するために欠かせない、重要な内容を取り扱っていたと確信している
- 8)この演習から、臨床の現場で必要な仕事を行う上で求められる知識やスキルを、確実に得られていると思う
- 9)担当教員はこの演習の指導で、役に立つ教材を活用していた
- 10)この演習で学ぶべきことを学ぶのは、学生としての私の責任だ
- 11)この演習で取り上げられた考えが理解できない場合、どこに支援を求めればよいのかを知っている
- 12)こうした技術の重要な側面を学ぶ上で、演習をどう利用すればよいのか理解している
- 13)この演習の内容から何を学ぶべきなのかを理解している

## 結果

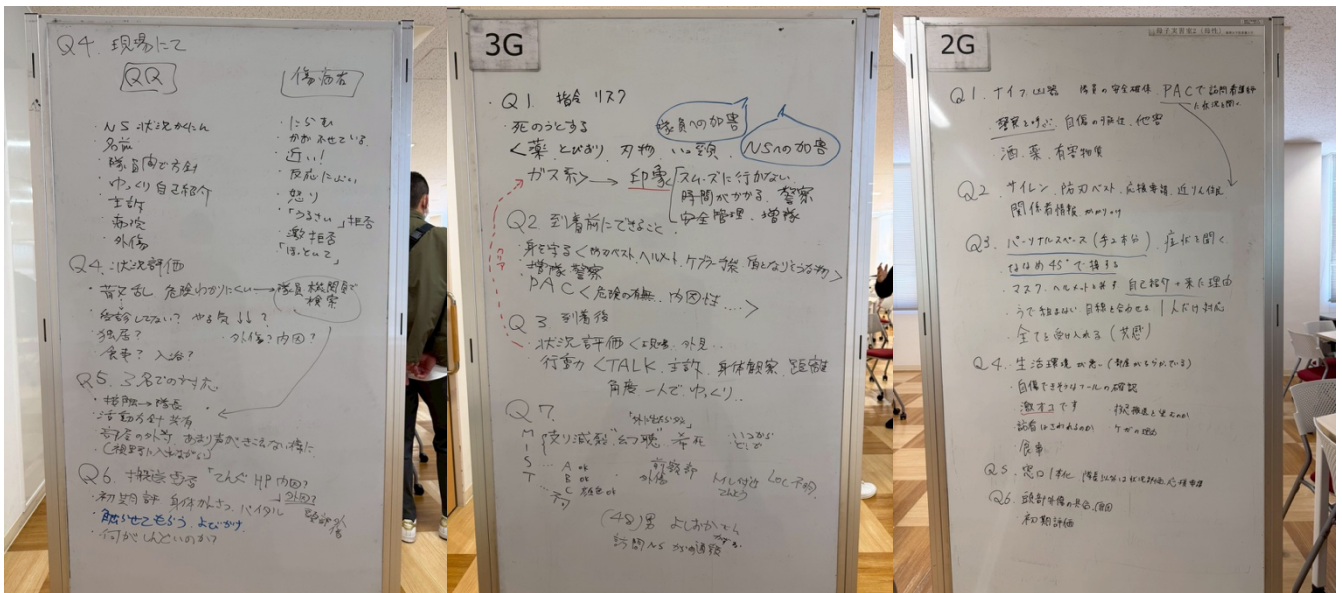


<ご意見・ご感想があればご記入ください。>

- 再度受講を受ける機会が欲しいです。
- 長崎でもしてほしいです。刺激になり勉強になった。テキスト等あればほしいです。

### <事後アンケート要約>

事後アンケートの結果、演習内容は参加者の期待に十分応えるものであり、学習目標である状況評価および言語的・非言語的コミュニケーションの理解についても概ね達成できたと評価された。事前学習資料やシミュレーション演習、講師からの助言やディスカッションが理解促進に有効であったとの意見が多く、演習前と比較して対応への自信は全員で向上し、統計学的にも有意な改善が認められた。また、演習内容は実践に活かせるとする回答が多く、事前課題の負担感も少なかった。シミュレーション演習はスキル向上に効果的との評価が多く、実践的で臨場感があり、**主体的に考える機会となった点が高く評価された**。一方で、他グループとの情報共有や振り返り時間の充実を求める意見もみられた。満足度は高く、他者への推奨意向も強かった。さらに、演習設計や指導方法、教材、教員の支援体制についても概ね高評価であり、学習環境が適切に整えられていたことが示された。以上より、**本シミュレーション演習は実践的能力の向上と学習満足度の双方において有効であった**と考えられる。



写真：実際の記載されたホワイトボード

## 5. 主催者・スタッフ振り返り内容の整理

### 1) 運営・進行に関する意見

- 参加申込時に振り仮名や性別を把握できると、名札作成やグループ分けが円滑になる
- シミュレーション前に隊員間で短時間の打ち合わせ時間を設ける必要性
- 実施班の決定方法（くじ引き）は雰囲気づくりに有効
- 体験機会の差が生じないよう均等化の工夫が望まれる
- 全体で質問・意見交換できる時間を設けると理解が深まる

### 2) シミュレーション設計・教育内容に関する意見

- 指令内容や患者情報は文字情報として提示すると理解しやすい
- ホワイトボード等を用いた振り返りにより理解が深まる
- 各シミュレーション後に良かった点・改善点を具体的に提示すると学習効果が高まる
- 他グループの情報共有を充実させると学びが広がる
- 反復シミュレーションの機会は実践力向上に有効
- 事例の詳細設定と情報共有

### 3) カリキュラム構成・難易度に関する意見

- PPST 受講済み者を前提とした内容であり、未受講者には難易度調整が必要な可能性
- 未受講者向けには基礎内容の補足や時間配分の工夫が望ましい
- 復習・応用コースとして自信回復や実践力向上に有効
- アドバンストコース化する場合は内容精選が必要

### 4) オンライン運営・環境に関する意見

- Zoom で会場状況を共有できた点は有用
- 音声環境やマイク配置の改善が必要
- 別室スタッフとの連絡体制の明確化が望ましい
- ホワイトボード内容の可視化があると理解しやすい

### 5) 目標共有・事前準備に関する意見

- シミュレーションの目的・目標の事前共有をより明確にする必要
- スタッフ間で事前に方向性を十分すり合わせる事が重要

#### <総括>

スタッフからは、運営方法、シミュレーション設計、難易度調整、オンライン環境、目標共有など多面的な改善提案が得られた。特に振り返り方法や情報共有の工夫、体験機会の均等化、事前準備の充実により、学習効果と満足度のさらなる向上が期待される。これらの知見は今後のシミュレーション演習の開発・構築に重要な示唆を与えるものである。

#### IV. 今後の方向性

本演習の事後アンケート結果より、本プログラムは精神症状を有する傷病者への対応に関する理解の促進および対応への自信の向上に寄与するなど、一定の教育的有用性が確認された。また、演習内容に対する満足度および実践への活用可能性についても高い評価が得られ、本演習が現場ニーズに即した実践的教育プログラムとして有効であることが示唆された。

本演習は、日本臨床救急医学会が実施する PPST 受講者を対象としたアドバンストコースとしての実装を視野に開発したものであり、精神症状を訴える傷病者への対応力向上を目的とした発展的教育として位置づけられる。今後は、本演習で得られた知見をもとに、アドバンストコースとしての内容の精選および教育デザインの改善を行い、継続的な実施および普及を図る必要がある。

一方で、本演習参加者の事前アンケートでは、学習者全員が精神症状を訴える傷病者への対応に困難感を抱いた経験があると回答しており、精神救急に関する体系的教育機会を十分に得ていない実態も明らかとなった。このことから、PPST 受講者を対象とした教育のみならず、精神症状を有する傷病者への基本的な対応を学ぶ入門的な教育プログラムの整備も重要な課題であると考えられる。

今後は、本演習の成果を基盤とし、①PPST 受講者を対象としたアドバンストコースとしての実装と質向上、②未受講者や経験の浅い救急隊員を対象とした入門コースの開発・検証、を段階的に進めることで、精神症状を有する傷病者への対応能力の底上げと、救急隊員の安全確保および心理的負担の軽減に寄与する教育体制の構築を目指す。今後も演習を継続して、効果測定の結果を蓄積し、エビデンスの確立を目指す。

#### 謝辞

本研究活動にあたり、研究助成事業として採択して下さった一般財団法人 救急進行財団および担当者の方に厚く御礼を申し上げます。また模擬傷病者役として協力して下さった樋口氏、動画撮影に協力して下さった佐藤氏、動画撮影にご協力いただいた消防機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

以上